

先端 IT 活用推進コンソーシアム
(AITC)

第 五 回 総 会

議 案 書

2014 年 10 月 17 日(金)

於 (株)日立ソリューションズ

目 次

第1号議案 第4期(2013年度)活動報告の件	
・ 活動実績.....	1-1
第2号議案 第4期(2013年度)収支報告の件	
・ 収支計算書.....	2-1
・ 貸借対照表・財産目録.....	2-2
・ 監査報告書.....	2-3
第3号議案 会員規約改定の件	
・ 会員規約改定.....	3-1
・ 会員規約改定 反映版.....	3-2
第4号議案 第5期(2014年度)活動計画承認の件	
・ 本会の活動・運営方針.....	4-1
・ 第5期(2014年度)の活動計画.....	4-1
第5号議案 第5期(2014年度)予算計画承認の件	
・ 予算計画.....	5-1
第6号議案 第5期(2014年度)理事/監事選任の件	
・ 役員構成.....	6-1
付属資料	
・ 第5期(2014年度)活動のご紹介.....	i-1
～部会および協働プロジェクトの活動計画～	

注:AITCにおける年度は下記の通りです。

第1期(2010年度):2010年9月8日～2011年8月31日

第2期(2011年度):2011年9月1日～2012年8月31日

第3期(2012年度):2012年9月1日～2013年8月31日

第4期(2013年度):2013年9月1日～2014年8月31日

今期⇒第5期(2014年度):2014年9月1日～2015年8月31日

第6期(2015年度):2015年9月1日～2016年8月31日

第 1 号議案

第 4 期(2013 年度)活動報告の件

先端 IT 活用推進コンソーシアム

第4期の活動総括

設立当初に設定した3年の会期を3年延長し、活動の一層の充実を目指す初年度として、下記の活動構想下、各種の新しい企画を立案、実行した。

- ・先端ITの研究から、活用推進へと発展
- ・AITCで培った知見やノウハウを社会に還元
- ・社会に認められる先端ITのプロフェッショナル集団へ

結果、活動成果の外部発信や若手技術者の取り込みに顕著な成果が見られ、総じて今後に繋がる進展が認められた。

■会員数

2014年8月31日現在： 総会員 52会員（法人&個人事業主会員:34、個人会員:12、学会会員:2、特別会員:4）

■第4期の重点施策と実績・成果

1. 重点施策

- 1) 活動成果の伝播・公開の強化
- 2) 情報公開、活動のオープン化
- 3) 若手技術者のより一層の育成

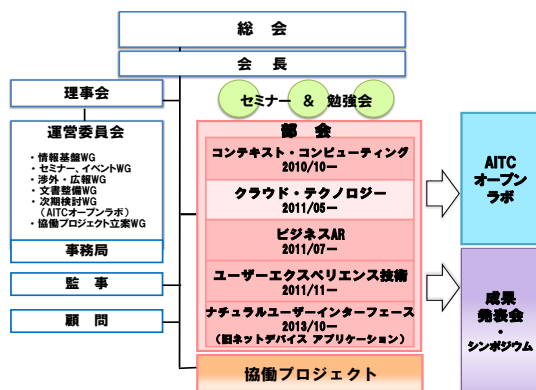
2. 実績・成果

- ・研究成果を文書にまとめ公開・講演
 - コンテキスト・コンピューティング研究会：3論文の執筆と学会発表
 - クラウド・テクノロジー活用部会：「気象庁XML用API」の作成、公開、講演
 - 外部での講演：8件
- ・「AITCオープンラボ」で活動成果を伝播
 - 月次開催：10回(演習付き勉強会)
 - 非会員、特に若手の参加者増
- ・各種情報の発信、イベントの告知・広告にオープンな外部サービスを活用
 - 認知度の向上
 - 新規参加者の増加
 - AITCパンフレットの作成
 - AITCニュースレターの発行
- ・ロゴの変更、イメージキャラクターの作成

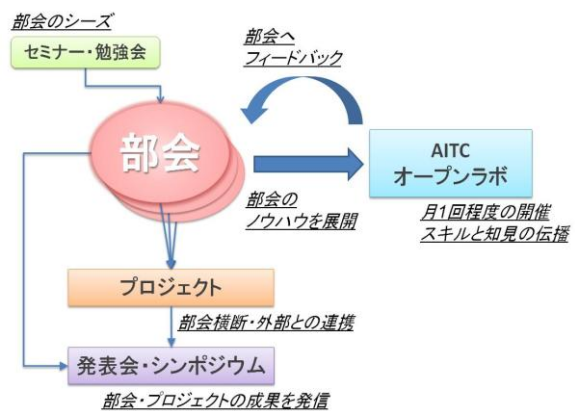


■部会、AITCオープンラボ等の活動実績

(参考図1：第4期 体制図)



(参考図2：活動の種類と関係)



1. 部会

- 1) クラウド・テクノロジー活用部会
 - ・気象庁XML用APIの作成・公開
 - ・AITCオープンラボとの連動企画：7回
 - ・学会発表&外部セミナー講演：7回
 - ・クラウド関連の情報交換、イベント参加報告、部会内勉強会の開催

2) コンテキスト・コンピューティング研究部会

- ・コンテキスト・コンピューティングに基づくアルゴリズム研究
- ・論文執筆: 3件
- ・学会発表: 4件
- ・輪読: 「集合知とは何か」、「情報推薦システム入門:理論と実践」

3) ビジネスAR研究部会

- ・空間OSのコンセプト検討 & デモシナリオ作成
- ・情報収集「2013-2014ここ一年のAR関連アップデート」
- ・内閣府「新たな社会像と取り組むべきICTに関する課題に対する意見募集」への意見書

4) ユーザーエクスペリエンス技術部会 & ナチュラルユーザーインターフェース活用部会

- ・先端NUI技術セミナー、AITCオープンラボの企画・開催: 3回
- ・部会内勉強会の開催(DICE+, Sphero, LeapMotion)
- ・NUI関連施設の見学
- ・アプリケーション試作「NUIを活用した交通切符販売機の改良」

2. AITCオープンラボ

- ・月次開催 : 9回
- ・外部イベント出張ラボ: 1回

3. 協働プロジェクト(Project LA)

- ・九州IT&ITS利活用推進協議会(QPITS)との実証実験: 2014年9月13日(土)
「防災サバイバルIT. hack ~最先端ITを活用した集中豪雨対策シミュレーション&アイデアソン」

4. 発表会・シンポジウム

- ・第4期活動成果発表会: 2014年9月25日(木)、27日(土)、29日(月)、10月3日(金)

■運営関連の活動実績

1. 年次総会: 1回

2. 理事会: 開催2回、ML審議7回

3. 運営委員会: 開催13回、ML/SNS審議13回

1) 情報基盤

- ・ドメイン&サーバー管理
- ・Facebookでのイベント広告管理(効果測定)

2) セミナー・イベント

- ・「気象庁XML利活用セミナー」気象庁との共同開催
- ・「先端NUI技術セミナー」開催サポート
- ・「Developers Summit 2014」出展サポート
- ・「活動成果発表会」企画

3) 渉外・広報

- ・ニュースリリース: 3件
- ・九州IT&ITS利活用推進協議会(QPITS)とのアライアンス締結、実証実験の企画立案
- ・AITCパンフレット作成(2014年2月発行)
- ・AITCニュースレター発行: 2回(創刊 2014年5月26日)

4) 文書整備

- ・会員規約の改定提案
- ・実施細則の更新

【参考資料：詳細データ】

1. 会員数の推移

2010年09月08日(設立総会時)	総会員:21会員(法人&個人事業主20会員、1特別会員)
2011年08月31日	総会員:48会員(法人&個人事業主38会員、5個人会員、2学会会員、3特別会員)
2011年10月21日(第二回総会時)	総会員:48会員(法人&個人事業主37会員、6個人会員、2学会会員、3特別会員)
2012年08月31日	総会員:53会員(法人&個人事業主40会員、7個人会員、3学会会員、3特別会員)
2012年10月12日(第三回総会時)	総会員:50会員(法人&個人事業主39会員、6個人会員、2学会会員、3特別会員)
2013年08月31日	総会員:54会員(法人&個人事業主41会員、7個人会員、2学会会員、4特別会員)
2013年10月04日(第四回総会時)	総会員:50会員(法人&個人事業主36会員、8個人会員、2学会会員、4特別会員)
2014年08月31日	総会員:52会員(法人&個人事業主34会員、12個人会員、2学会会員、4特別会員)
2014年10月17日(第五回総会時)	総会員:51会員(法人&個人事業主33会員、13個人会員、1学会会員、4特別会員)

2. 活動の実績

1) 総会

第四回総会開催

開催日	2013年10月4日
開催会場	リコーITソリューションズ本社事業所 大会議室(晴海アイランド トリトンスクエア オフィスタワーX 42階)
参加者数	59名(懇親会 45名)

2) 理事会 : 開催2回、ML審議7回

- ・開催日: 2013年09月19日、2013年10月4日
- ・ML審議: 2014年01月15日～2014年01月21日 新運営委員就任の件
2014年02月06日～2014年02月13日 成果物認定&一般公開の是非について
(クラウド・テクノロジー活用部会作成の気象庁XML用API 3種)
2014年02月25日～2014年03月01日 成果物認定&一般公開の是非について
(コンテキスト・コンピューティング研究部会執筆論文
「コンテキスト・コンピューティングとその応用」)
2014年05月11日～2014年05月20日 実施細則 修正版V1.1.1承認の件
2014年05月28日～2014年05月30日 九州IT&ITS利活用推進協議会(QPITS)とのアライアンス締結の件
2014年06月27日～2014年06月30日 NTTデータ 理事交代の件
2014年07月04日～2014年07月11日 第4期(2013年度)会員アンケート実施の件

3) 運営委員会 : 開催13回、ML審議13回

- ・開催日: 2013年09月13日、2013年09月19日、2013年10月25日、2013年11月22日、2013年12月26日、
2014年01月24日、2014年02月28日、2014年03月28日、2014年04月25日、2014年05月23日、
2014年06月27日、2014年07月25日、2014年08月22日
- ・審議(ML、SNS) :
2014年01月08日～2014年01月14日 内閣府への意見提出に関するニュースリリースの実施について
2014年01月09日～2014年01月13日 予算申請:AITCパンフレット作成費用
2014年02月03日～2014年02月06日 成果物の認定と公開に関する理事会審議実施の件
(気象庁XML用API 3種)
2014年02月14日～2014年02月18日 予算申請:DEIM2014参加費用
2014年02月24日 成果物の認定と公開に関する理事会審議実施の件
(DEIM論文発表に向けて、公開およびプレスリリース)
2014年04月03日～2014年04月10日 個人会員入会承認の件
2014年04月04日～2014年04月10日 個人会員入会承認の件
2014年04月11日～2014年04月16日 予算申請:4月度AITCオープンラボ外部会場費
2014年04月17日～2014年04月23日 法人会員入会承認の件
2014年05月17日～2014年05月19日 予算申請:5月度AITCオープンラボ外部会場費
2014年05月30日 予算申請:SoC2014論文作成用 貸し会議スペース費用
2014年05月31日～2014年06月04日 6月度AITCオープンラボ非会員の参加費の件
2014年07月18日～2014年07月22日 個人会員入会承認の件

4) 活動対象分野と体制

- ① クラウド・テクノロジー : 勉強会活動を経て、2011年5月に部会化
- ② コンテキスト・コンピューティング : 2010年10月より部会活動開始
- ③ AR : ビジネスARをテーマに2011年7月より部会活動開始
- ④ ユーザーエクスペリエンス技術 : 2011年12月より部会活動開始
(注:第3期までネットデバイスアプリケーション部会と連携)
- ⑤ ナチュラルユーザーインターフェース:2013年10月よりUX技術と連携し活動開始
(注:ソーシャル・コミュニケーション分野に関しては、SNS等を設立時よりAITC全体で活用)

- 5) 主催・共催イベント(総会、NUI セミナー、気象庁 XML 利活用促進セミナー、AITC オープンラボ)
計 14 回、
総参加者数: 467名 (会員: 288名、非会員: 179名)
-

2013/10/04(金) 先端 IT 活用推進コンソーシアム(AITC) 第四回総会

講師: 大学共同利用機関 情報・システム研究機構統計数理研究所 教授 丸山 宏氏

2013/11/21(木) 第 2 回 先端 NUI 技術セミナー「富士通研究所の画像センシング技術と UI への応用」

講師: 富士通研究所 メディア処理システム研究所 中島 哲氏

2013/11/23(土) 11 月期 AITC オープンラボ「R 言語で始めよう、データサイエンス! (ハンズオン勉強会)」

講師: クラウド・テクノロジー活用部会 菅井 康之(イーグル)

2013/12/21(土) 12 月期 AITC オープンラボ「セマンティック Web 技術に触れてみよう! RDF/SPARQL ハンズオン勉強会」

講師: コンテキスト・コンピューティング研究部会 小林 茂

クラウド・テクノロジー活用部会 荒本 道隆(アドソル日進)

2014/01/29(水) 1 月期 AITC オープンラボ「簡単に仮想環境を構築したい人のための Vagrant & Chef 勉強会」

講師: 運営委員会 AITC オープンラボ WG 門馬 隆(富士ゼロックス)

2014/02/05(水) 第 3 回 先端 NUI 技術セミナー「音声認識・音声合成技術の現状と NTT における取り組み」

講師: NTT メディアインテリジェンス研究所 宮崎 昇氏

2014/02/05(水) 2 月期 AITC オープンラボ「デジタルガジェット祭り」

講師: ユーザーエクスペリエンス技術部会 & ナチュラルユーザーインターフェース活用部会メンバー

2014/03/20(木) 第 2 回 気象庁 XML 利活用セミナー「気象情報を知る・取る・使うための実践」

講師: クラウド・テクノロジー活用部会

上村 準也(キヤノンソフトウェア)、荒本 道隆(アドソル日進)、菅井 康之(イーグル)

2014/03/30(日) 3 月期 AITC オープンラボ「R 言語で始めよう、データサイエンス! (ハンズオン勉強会)」

講師: クラウド・テクノロジー活用部会 菅井 康之(イーグル)

2014/04/28(月) 4 月期 AITC オープンラボ「第 2 回 R 言語で始めよう、データサイエンス! (ハンズオン勉強会)」

講師: クラウド・テクノロジー活用部会 菅井 康之(イーグル)

2014/05/28(水) 5 月期 AITC オープンラボ「D3.js でオープンデータをビジュアライズしてみよう! (ハンズオン勉強会)」

講師: コンテキスト・コンピューティング研究部会 高岡 大介(ピースミール・テクノロジー)

2014/06/27(金) 6 月期 AITC オープンラボ「第 2 回 D3.js でオープンデータをビジュアライズしてみよう! (ハンズオン勉強会)」

講師: クラウド・テクノロジー活用部会 荒本 道隆(アドソル日進)

2014/07/17(木) 7 月期 【出張】AITC オープンラボ「D3.js を使ったデータビジュアライズ勉強会」

講師: クラウド・テクノロジー活用部会 荒本 道隆(アドソル日進)

2014/08/30(土) 8 月期 AITC オープンラボ「夏休み最後の自由研究をしよう! データビジュアライゼーションもくもく会」

講師: クラウド・テクノロジー活用部会 荒本 道隆(アドソル日進)、菅井 康之(イーグル)

コンテキスト・コンピューティング研究部会 高岡 大介(ピースミール・テクノロジー)

6) 部会および部会間連携活動

- ・部会開催(月次) + 部会 SNS(随時)
- ・協働プロジェクト(月次 + 随時) + SNS(随時)
- ・リーダー会議(月次)
- ・5 部会合同部会 & 忘年会(年次 2013/12/20)

① クラウド・テクノロジー活用部会(2011 年 5 月発足～2013 年 10 月部会名変更)

月例会部会: 2013/09/25(水)、10/16(水)、11/08(金)、12/20(金)、2014/01/16(木)、02/19(水)、03/25(火)、04/22(火)、
05/20(火)、06/24(火)、07/29(火)、08/19(火)

参加者: 延べ 95 人

活動実績: 部会開催: 12 回

・主な活動内容

- －クラウド関連の情報交換、イベント参加レポート
 - －部会内勉強会の開催(ブラッシュアップしてオープンラボで開催)
- 勉強会資料 <http://cloud.aitc.jp>

- 他団体のイベントへの登壇:7回
- ・成果物
 - 気象庁 API の公開

② コンテキスト・コンピューティング研究部会(2010年10月発足)

月例会部会: 2013/09/20(金)、10/18(金)、12/04(水)、12/20(金)、2014/01/20(月)、02/21(金)、03/20(木)、04/11(金)、05/16(金)、06/20(金)、8/29(金)

参加者: 延べ105人(お試し参加:3人)

活動実績:・部会開催:11回

- ・不定期開催 3回(SNSによるオンラインミーティング)

・主な活動内容

- コンテキスト・コンピューティング論文作成
- 学会発表
 - ① 2014/1/28 知能ソフトウェア工学研究会(KBSE)
 - ② 2014/3/5 第6回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム(DEIM2014)
 - ③ 2014/06/21 第5回ソーシャルコンピューティングシンポジウム(SoC2014)
- 関連研究調査のための輪読
 - ① 集合知とは何か 西垣 通著
 - ② 情報推薦システム入門-理論と実践 Dietmar Jannach 他著

・成果物

- ①論文 コンテキスト・コンピューティングの構想-情報の共有と個人化の方法論として-
- ②論文 コンテキスト・コンピューティングとその応用
- ③論文 コンテキストコンピューティングに基づく意思決定のための知識抽出手法

③ ビジネス AR 研究部会(2011年7月発足)

月例会部会: 2013/09/09(月)、10/11(金)、11/08(金)、12/13(金)、2014/01/17(金)、02/25(火)、03/14(金)、04/10(木)、05/16(金)、06/06(金)、07/11(金)、08/08(金)

参加者: 延べ79人

活動実績:・月例会開催 12回

- ・不定期開催 3回(顧問三淵先生との意見交換会)

・主な活動内容

- 外部講演 1回(日本技術士会情報工学部会向け)
- 内閣府「新たな社会像と取り組むべきICTに関する課題に対する意見募集」への意見投稿
- 「Developers Summit 2014」コーナー出展(AR産業論 冊子版、部会紹介パネル)
- 鯖江市電脳メガネアプリコンテスト企画部門に応募
- 空間 OS デモシステム&デモンナリオ

④ ユーザーエクスペリエンス技術部会(2011年12月発足)&ナチュラルユーザーインターフェース活用部会(2013年10月発足)

月例会部会: 2013/9/18(水)、10/24(木)、11/21(木)、12/20(金)、2014/02/05(水)、03/27(木)、04/24(木)、05/22(木)、06/26(木)、07/24(木)、8/28(木)

参加者: 延べ94人

活動実績:・部会開催 11回(2013年10月度より発足、1月休催)

- ・不定期開催 1回(オープンラボ準備のため2月度部会での会議が行えなかったため、第2回ミーティングを実施)

・主な活動内容

- デジタルガジェット紹介イベントの実施(2014年2月度オープンラボ)
- NUI関連の情報交換、デバイス/ガジェットの紹介
- 部会内勉強会の開催(DICE+, Sphero, LeapMotion)
- 千葉工大 東京スカイツリータウンキャンパス 見学
- アプリケーション試作「NUIを活用した交通切符販売機の改良」

⑤ 協働プロジェクト<Project LA>(2011年7月 検討開始)

会議:・開発者ミーティング(コンテキスト・コンピューティング研究部会&クラウド・テクノロジー研究部会の有志):随時開催

活動実績:・System LA α版のブラッシュアップ

- ・実証実験: 2013年12月20日 合同部会における気象災害対策シミュレーション
2014年9月13日北九州市における「防災サバイバルITハック」集中豪雨対策シミュレーション
- ・講演・発表:2014年2月3日「ソフトウェアジャパン 2014 ITフォーラム」(主催:情報処理学会)

7) 活動成果物(理事会の認定を得て一般公開)

クラウドテクノロジー活用部会

- ・気象庁XML用API(3種)

コンテキスト・コンピューティング研究部会:

- ・論文:「コンテキスト・コンピューティングの構想~情報の共有と個人化の方法論として~」

- KBSE 2014(知能ソフトウェア工学研究会)投稿&発表
- ・論文「コンテキスト・コンピューティングとその応用」
DEIM2014(日本データベース学会 他)投稿&発表
- ・論文「コンテキスト・コンピューティングに基づく意思決定のための知識抽出手法」
SoC2014(第5回ソーシャルコンピューティングシンポジウム)投稿&発表

8) 公開資料

- ・総会資料
 - ー 第四回総会 総会議案書(一般公開)
総会記念講演資料「情報技術の変遷は社会をどう変えるか」(一般公開)
第3期(2012年度)会員アンケート サマリー(会員限定公開)
- ・活動成果物 (参照: 7)活動成果物)
- ・セミナー資料
 - ー 第2回 先端 NUI 技術セミナー資料「富士通研究所の画像センシング技術とUIへの応用」
 - ー 第2回 気象庁 XML 利活用セミナー「気象情報を知る・取る・使うための実践」(気象庁ホームページに掲載)
- ・AITC オープンラボ資料
 - ー 2013年11月期 AITC オープンラボ「R言語で始めよう、データサイエンス!(ハンズオン勉強会)」
資料:<https://www.facebook.com/events/166551343553046/>
<http://www.slideshare.net/yasuyukisugai/rjavascript-visualization>
<http://www.slideshare.net/yasuyukisugai/r-28544592>
 - ー 2013年12月期 AITC オープンラボ「セマンティック Web 技術に触れてみよう! RDF/SPARQL ハンズオン勉強会」
資料:<https://www.facebook.com/events/254385761385403/>
<http://cloud.aitc.jp/20131221/>
 - ー 2014年1月期 AITC オープンラボ「簡単に仮想環境を構築したい人のための Vagrant & Chef 勉強会」
資料:<https://www.facebook.com/events/1383289108596770/>
<http://www.slideshare.net/yasuyukisugai/vagrant-tutorial-min>
 - ー 2014年2月期 AITC オープンラボ「デジタルガジェット祭り」
資料:<https://www.facebook.com/events/1398250900426216/>
 - ー 2014年3月期 AITC オープンラボ【再演】「R言語で始めよう、データサイエンス!(ハンズオン勉強会)」
資料:<https://www.facebook.com/events/489792867814677/>
<http://www.slideshare.net/yasuyukisugai/r-28544592>
<http://www.slideshare.net/yasuyukisugai/r-charts>
 - ー 2014年4月期 AITC オープンラボ「第2回 R言語で始めよう、データサイエンス!(ハンズオン勉強会)」
資料:<https://www.facebook.com/events/712190785499991/>
<http://www.slideshare.net/yasuyukisugai/2-r-34017181>
 - ー 2014年5月期 AITC オープンラボ「D3.js でオープンデータをビジュアライズしてみよう!(ハンズオン勉強会)」
資料:<https://www.facebook.com/events/582797525151372/>
https://dl.dropboxusercontent.com/u/1662536/aitc/D3_SPARQL%E3%83%8F%E3%83%B3%E3%82%BA%E3%82%AA%E3%83%B3.pdf
 - ー 2014年6月期 AITC オープンラボ「第2回 D3.js でオープンデータをビジュアライズしてみよう!」
資料:<https://www.facebook.com/events/726655410740071/>
http://cloud.aitc.jp/20140627_D3js/201406xx_D3js.pdf
 - ー 2014年7月期【出張】AITC オープンラボ
「YOKOHAMA Ups! × LOCAL GOOD YOKOHAMA 共同開催 D3.js をつかったデータビジュアライズ勉強会」
資料:http://cloud.aitc.jp/20140717_D3js/20140717_D3js.pdf
 - ー 2014年8月期 AITC オープンラボ「夏休み最後の自由研究をしよう! データビジュアライゼーションもくもく会」
資料:<https://www.facebook.com/events/708479205890571/>
- ・外部発表資料
 - ー ソフトウェアジャパン 2014 IT フォーラムセッション
ビッグデータを真に活用するために
～ 実証プロジェクト「知識から行動へ」そして「気象庁 XML とクラウド技術」検証のご紹介～
AITC 概要紹介
講演-1 資料 AITC におけるビッグデータへの取り組み(1) ～Project LA
・Project LA が目指すソーシャル・インテリジェンスとは?
・Project LA を実現する技術
講演-2 資料 気象庁 XML の紹介
講演-3 資料 AITC におけるビッグデータへの取り組み(2) ～気象庁 XML とクラウド技術
・気象庁 XML を蓄積してみた直面した課題の報告
・気象庁 XML と他のオープンデータとの結合/可視化
・気象予報データ(数値予報 GPV)を用いたデータビジュアライゼーション・
気象庁 XML 等のオープンデータにおける電子署名とタイムスタンプの活用アイデア

9) 外部組織・団体との協力関係(順不同)

- ・アライアンス・パートナー
九州 IT&ITS 利活用推進協議会 (QPITS)
- ・部会活動、Project LA への協力・支援
産業技術総合研究所
気象庁
消防庁 消防大学校 消防研究センター
防災科学技術研究所
慶應義塾大学大学院 稲見研究室
東京大学 大学院情報理工学系研究科 ソーシャル ICT 研究センター
- ・BizAR 研究部会のアライアンス・パートナー
デジタルハリウッド大学大学院 三淵研究室
- ・マーケティング活動支援
情報処理学会
- ・メディア・パートナー
ITmedia エンタープライズ

10) 外部主催イベントに対する協賛、協力、出展: 3回

- ・「ソフトウェアジャパン 2014」協賛
主催: 一般社団法人 情報処理学会、開催日: 2014 年 2 月 4 日
- ・「Developers Summit 2014」ブース出展
主催: 翔泳社、開催日: 2014 年 2 月 13 日~2 月 14 日
- ・「D3.js をつかったデータビジュアライズ勉強会」協力
共同開催: YOKOHAMA Ups ! × LOCAL GOOD YOKOHAMA、開催日時: 2014 年 7 月 17 日

11) 学会、外部セミナー等での講演: 8回

- ・「Open Hack Day Japan 2 Conference」
主催: Yahoo Japan、開催日: 2014 年 01 月 25 日、会場: Yahoo Japan
講師: 荒本道隆(アドソル日進)
- ・「KBSE2014」
主催: 知能ソフトウェア工学研究会、開催日: 2014 年 1 月 26 日、会場: 機械振興会館
講師: 牧野友紀(日本ユニシス)、和泉憲明(産業技術総合研究所)
- ・「ソフトウェアジャパン 2014」
主催: 情報処理学会、開催日: 2014 年 2 月 4 日、会場: タワーホール船堀
司会: 飯沢篤志(リコーIT ソリューションズ)
講師: 牧野友紀(日本ユニシス)、道村唯夫(富士ゼロックス)、新井隆之(気象庁)
荒本道隆(アドソル日進)、菅井康之(イーグル)、岡村和英(テクリエ)、宮地直人(ラング・エッジ)
- ・「Developers Summit 2014」
主催: 翔泳社、開催日: 2014 年 2 月 13 日~2 月 14 日、会場: 目黒雅叙園
講師: 菅井康之(イーグル)
- ・「DEIM2014」
主催: 日本データベース学会、電子情報通信学会データ工学研究専門委員会、情報処理学会 DD 研
開催日: 2014 年 3 月 3 日~2014 年 3 月 5 日、会場: 淡路夢舞台
講師: 牧野友紀(日本ユニシス)、飯沢篤志(リコーIT ソリューションズ)、道村唯夫(富士ゼロックス)
- ・「Hack for Japan 気象データ勉強会」
主催: Hack for Japan、開催日: 2014 年 4 月 17 日
講師: 菅井康之(イーグル)
- ・「D3.js をつかったデータビジュアライズ勉強会」
主催: YOKOHAMA Ups ! × LOCAL GOOD YOKOHAMA、開催日: 2014 年 7 月 17 日、会場: さくら WORKS
講師: 荒本道隆(アドソル日進)、菅井康之(イーグル)
- ・「SoC2014」
主催: 日本データベース学会、電子情報通信学会データ工学研究専門委員会
開催日: 2014 年 6 月 21 日、会場: リコーIT ソリューションズ
講師: 高岡大介(ピースミール・テクノロジー)

12) プレスリリース: 3件

- ・2014 年 2 月 17 日
先端 IT 活用推進コンソーシアム、気象庁 XML を利用するための API を公開 ~ 日本国内のリアルタイム気象庁防災
情報オープンデータの活用を促進 (PDF)
- ・2014 年 3 月 3 日
先端 IT 活用推進コンソーシアム、DEIM2014 にて新領域「コンテキスト・コンピューティング」の研究成果を発表 (PDF)

・2014年7月29日

先端 IT 活用推進コンソーシアムと九州 IT & ITS 利活用推進協議会が連携し先端 IT の活用を推進 ～ 連携第一弾として、気象災害をテーマとした実証実験を実施 ～ (PDF)

13) AITC ニュースレター: 2回

・2014年5月26日「AITC ニュースレター」創刊のご案内

第1号「デジタルガジェット祭りだ！」

・2014年7月2日 第2号「AITC オープンラボへようこそ」

14) 文書整備

会員規約の改定提案

実施細則の改定 V1. 1. 1版(5月26日発効)

15) アンケート実施、公開

・「第4期(2013年度)会員アンケート」

実施期間:2014年07月14日～2014年08月20日

公開:2014年10月17日(本会サイトに掲載、会員限定公開)

(注: 第4期(2013年度)とは、2013年9月1日～2014年8月31日を指す)

第2号議案

第4期(2013年度)収支報告の件

先端IT活用推進コンソーシアム

第 4 期(2013 年度)収支計算書

2013 年 9 月 1 日 から 2014 年 8 月 31 日 まで (単位:円)

	2013 年度 予算	2013 年度 実績	差額	備考 予算策定時 vs 実績
1. 収入の部				
前年度繰越	6,351,062	6,351,062	0	
年会費	3,686,000	3,461,000	225,000	法人&個人事業主 36 会員x10 万円 vs 33 会員 x10 万円 個人会員 8 会員 x 1 万円 vs 9 会員x1 万円 1 会員 x5 万円 3 会員 x5 千円 学術会員 2 会員 x 3 千円 vs 2 会員 x3 千円
セミナー等参加費	220,000	191,095	28,905	セミナー非会員参加費: 20 名x3 千円 vs 22 名x3 千円 (注:5 月以降、貸室無料の場合は参加を無料化) 懇親会&忘年会 参加費: 16 万円 vs 126,300 円
雑収入	1,200	1,330	△130	受取利息等
収入の部合計	10,258,262	10,004,487	253,775	
2. 支出の部				備考:用途別費用
総会開催費	300,000	211,856	88,144	総会懇親会: 175,000 円(但し、補てん分は 90,500 円) 総会表彰賞状の作成費用、備品運搬費等:36,856 円
AITC オープンラボ、 成果発表会等の開催費	1,000,000	103,625	896,375	AITC オープンラボ用外部会場費:78,408 円 “ ” 広告費: 18,922 円 備品運搬費等: 6,295 円
コンソーシアムサイト リニューアル費 レンタルサーバー運用管理費	200,000	195,323	4,677	サイトリニューアル費: 84,000 円 Web サイト レンタルサーバー費(2 年分):91,823 円 ドメイン更新: 19,500 円
活動支援金	2,100,000	274,577	1,825,423	Ustream 用映像&配信用機器購入費: 47,876 円 クラウド・テクノロジー活用部会 <気象庁 XML の受信&蓄積サーバー費>:118,515 円 UX&NUI 活用部会<実証実験用機器>: 43,386 円 忘年会: 64,800 円(但し、補てん分は 23,000 円)
協働プロジェクト支援金	200,000	114,227	85,773	レンタルサーバー費:67,473 円 Baklog 年間使用料:22,680 円 テスト用サーバー費:13,888 円 論文執筆用貸し会議室費:10,186 円
特別支援金	1,000,000	232,278	767,722	AITC パンフレット作成費 :229,038 円 KBSE 技術研究報告書 印刷費 : 3,240 円
イベント参加費	500,000	107,207	392,793	Developer Summit 2014 展示用備品費: 4,207 円 DEIM 2014 参加費: 103,000 円
事務局経費	1,785,000	1,785,000	0	事務局サポート要員費(情報配信&サイト管理、会員管理& 対応、セミナー等申し込み窓口&運営補助、財務管理、 経理事務、事務作業一般、対外対応等)
通信費	10,000	960	9,040	郵送料:140 円 切手代:820 円
事務消耗品費	5,000	2,545	2,455	領収証書、会計帳簿、封筒:865 円 プリンターインク補充分: 1,680 円
雑費	50,000	21,834	28,166	名刺作成費: 19,800 円 振り込み手数料:2,034 円
予備費	3,108,262	0	3,108,262	
支出の部合計	10,258,262	3,049,432	7,208,830	
次期繰越収支差額		6,955,055		

収支報告にあたって:

- ・単年度収支としては 60 万円の余剰金が発生した。原因は活動成果発表会や System LA の実証実験が 9 月に繰り延べ開催となったため。
- ・次年度への繰越金 695 万円については、AITC の一層の活性化と発展を間断なく支えるため予備費として 30%程度を確保するとともに、各種の活動に積極的に充当していくことをご了解をいただきたい。

貸借対照表

2014年8月31日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
【資産の部】			
現金預金	7,075,055		
流動資産合計		7,075,055	
資産合計			7,075,055
【負債の部】			
前受金	120,000		
流動負債合計		120,000	
負債合計			120,000
【正味財産の部】			
正味財産			6,955,055
(うち当期正味財産増加額)			(603,993)
負債及び正味財産合計			7,075,055

財産目録

2014年8月31日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
【資産の部】			
現金預金	7,075,055		
普通預金	7,075,055		
横浜銀行	7,075,055		
流動資産合計		7,075,055	
資産合計			7,075,055
【負債の部】			
流動負債			
前受金	120,000		
流動負債合計		120,000	
負債合計			120,000
正味財産			6,955,055

第4期(2013年度) 監査報告書

監査報告書

2014年9月24日

先端IT活用推進コンソーシアム
会長 鶴保 征城 殿

監事 水谷 学 

私 監事は、先端IT活用推進コンソーシアム会員規約第34条に基づき、本会の会期と定めた2013年9月1日から2014年8月31日における会計および業務について監査を行い、次のように報告します。

記

1. 監査の方法と概要

- (1) 会計監査のため、帳簿ならびに関係書類の閲覧をし、貸借対照表、収支計算書、財産目録について検討し、必要と思われる監査手続きを用いて調査した。
- (2) 業務監査のため関係書類の閲覧をし、業務執行について検討し、必要と思われる監査手続きを用いて調査した。

2. 監査意見

- (1) 貸借対照表、収支計算書、財産目録は会計帳簿の記載金額と一致し、法令および規約に従って、先端IT活用推進コンソーシアムの財産および収支を正しく示していると認める。
- (2) 事業報告書の内容および業務執行に関して、不正行為または法令もしくは規約に違反する事実はないことを認める。

以上

第3号議案

会員規約改定の件

先端 IT 活用推進コンソーシアム

会員規約改定

経緯

運営委員会内の文書整備WGでは、2013年末から会員規約(注1)と実施細則の分かりやすさの改善を主目的として、それぞれの改定案をまとめる活動を実施した。

すでに、実施細則の改善については、2014年5月の理事会で承認され発効済みであるが、同じ趣旨で作成された会員規約への改定案を、理事会承認のもと総会議案としてここにご提案する。

(注1:本議案では、会員規約の末尾に記載されている会期規定、会費規定、および、活動支援金規定を会員規約に含むものとする。)

改定の事由

分かりやすさへの改善

～会員規約を理解するに知見を必要とせず、初めての方にも判り易い表記に。

改定の背景:

AITCも設立から4年が経過し、少しずつ新しいメンバー増えてきている。新会員への入れ替わりが進めば、会員規約を理解するに必要な経験や慣習を持つ人が減っていき、特定の人々しか規約類を扱えなくなるおそれがある。その懸念をできるだけ減らすためのアクションをしておきたい。

改定案の概要

変更部分は数多くあるが、それらの内容は以下の3種類に分類される。

- 1) 会員種別の名称変更 (17箇所)とその副作用の吸収(6箇所)
「会員」という言葉を文脈に依存して解釈する必要のある場合がかなりあった。
下記の趣旨で会員種別を整理し、案に反映した。

- ・正会員：議決権を有する法人・個人事業主
- ・準会員：議決権を持たない個人会員・学会会員
- ・特別会員：従来と同じ

名称変更案に伴い、第23条(定足数)、第24条(議決)、第26条(議事録)の「構成員」を「議決権を有する構成員」に変更し、対象となる会員種別を明確にした。

- 2) 明確な表現への改善

・第12条4項

正会員外から選任された役員の内任交代について、暗黙の制約を明文化

- 3) 誤記修正あるいは言い回しの改善 (26箇所)

例：「規則」→「規約」、「第1条」→「第4条」 (誤記修正)
「表決」→「議決」 (表現の統一)
「顧問による議決権の行使は出来ない。」
→「顧問は議決権を有しない。」 (明確化)
「顧問への登録に際して会費の徴収はしない」
→「顧問に対して会費の徴収はしない」 (直裁化)

改定案の詳細

添付の「会員規約の修正文面」を参照されたい。

上記をもって、会員規約第35条(規約の変更)に従い、会員規約の改訂をご提案する。

(注：会員規約第35条「・・・出席会員数の3分の2以上の議決を得た場合、変更できる。」)

この改定をご承認いただいた場合には、会と活動の更なる発展に寄与すべく、引き続き会員規約の見直しを進め、更に判り易く、理解し易くするための検討を行う。

【作成】2010年9月8日
【最終更新】2014年10月16日

第1章 総則

(名称)

第1条 本会の名称は、先端 IT 活用推進コンソーシアムとする。

(英文名: Advanced IT Consortium to Evaluate, Apply and Drive、略称: AITC、ドメイン名: aitc.jp)

(事務所)

第2条 本会は、主たる事務所を第39条規定の事務局内に置く。

(目的)

第3条 昨今、IT の変化は急速に速まり、加えて、従来の発展の方向性とは大きく変わりつつある。本会は、日常的な努力では習得の難しい先端 IT に関し、技術者が研鑽し互いに切磋琢磨する場、利活用を進めるための情報と知見を共有する場、次の先端 IT を発掘し紹介し次世代の IT 活用を提言する場となることを活動目的とし、もって、日本の IT と IT が支える日本の産業、社会の発展に資することを目指す非 営利団体である。

(活動)

第4条 本会は、前条の目的を達成するため、以下の活動を行う。

- (1) 先端 IT に関する情報の収集、交換ならびに提供
- (2) 先端 IT の試用評価や可能性のアセス
- (3) ベストプラクティスの作成やノウハウの蓄積・共有、報告書の作成
- (4) 報告書の公開による知識や経験の伝播
- (5) 次の先端 IT の発掘ならびに紹介
- (6) 先端 IT に関する情報を集約したサイトの構築
- (7) 国内外の他組織、他団体との連携協力
- (8) 前各号に掲げるもののほか、本会の目的を達成するために必要な活動

第2章 会員

(種別)

第5条 本会の**正会員**は、本会の活動目的に賛同し、会費規定に定めた所定の会費を納めた法人および個人事業主とする。但し、特に理事会の承認を得た場合にはこの限りでない。**正会員は議決権を有する。**

2. 本会の目的達成のため必要に応じて特別会員、個人会員、学会会員をおくことができる。**個人会員および学会会員を合わせて、準会員と呼称する。**

コメント [01]: R01 用語変更

コメント [02]: A090 明確化

コメント [03]: R04, R05 用語追加

(入会)

第6条 本会の会員になろうとするものは、所定の入会申込書を事務局に提出し、理事会の承認を得なければならない。

2 本会对し会員としての権利を行使する者は、申込責任者又はこれに代わって指定された者であって事務局に届け出がなされた者(以下「会員代表者」という)とする。

3 会員代表者を変更した場合は、速やかに事務局に届け出なければならない。

(会費)

第7条 会員は、本会の運営及び活動の実施に要する経費を負担するため、総会の定める会費規定に基づき、会費を納入しなければならない。

(退会)

第8条 会員は、退会しようとするとき、事前に書面をもってその旨を事務局に届け出なければならない。

2 **正会員**が解散又は破産したときは、退会したものとみなす。但し、**当該会員**が吸収、合併等による事由で解散する場合においては、**当該会員**が望む場合その権利及び義務は、新法人に移管される。

コメント [04]: R12 用語変更

コメント [05]: R13 用語変更

コメント [06]: R14 用語変更

3 準会員および特別会員の退会については、2項の正会員の規定を準用するものとする。

コメント [07]: R12 内容追加

(除名)

第9条 会員が、次の各号の一に該当するときは、理事会において理事現在数の3分の2以上の議決を得て、これを除名できる。

- (1) 会費を納入せず督促後なお2カ月以上納入しないとき
 - (2) 本会の名誉を棄損又は本会の目的に著しく反する行為をしたとき
- 2 前項第2号の規定により会員を除名しようとする場合は、当該会員にあらかじめ通知するとともに、除名の議決を行う理事会において当該会員に弁明の機会を与えなければならない。

(会員資格の喪失に伴う権利及び義務)

第10条 会員が第8条又は第9条の規定によりその資格を喪失したときは、本会に関する権利を失い、義務を免れる。但し、不履行の義務に関しては、これを免れることはできない。

2 本会は、会員がその資格を喪失しても、既に納入した会費その他の拠出金及び物品は一切返還しない。

第3章 役員

(種別)

第11条 本会に次の役員を置く。

- (1) 理事5人以上(1**正会員につき**1人とする)
 - (2) 監事1人以上(1**正会員につき**1人とする)
- 2 理事の内1人を会長、2人までを副会長とする。

コメント [08]: R22 用語変更

コメント [09]: R23 用語変更

(選任)

第12条 理事及び監事は、総会において、**正会員**の内から選任する。但し、**正会員**以外の者を本会の理事又は監事とする必要のある場合は、3人を限度として選任できる。

2 会長及び副会長は、理事会において理事の互選により定める。

3 理事及び監事は、相互に兼ねることはできない。

4 任期内での役員交代は、第1項の規定に関わらず、理事会の議決を得て、前任者が後任者を当該会員から選任することができる。この場合、当該理事会開催後の最初に開催する総会において承認を得るものとする。**正会員以外から選任された役員**の任期内での交代は原則として認めない。

コメント [010]: R24 用語変更

コメント [011]: R25 用語変更

コメント [012]: R26 内容追加

(職務)

第13条 理事は、理事会を構成し、業務の執行を決定する。

2 会長は、本会を代表し、業務を統括する。

3 副会長は、会長を補佐し、場合によりその職務を代行する。

4 監事は監査の職務を行う。

(任期)

第14条 役員任期は、1年とする。但し、再任は妨げない。

2 交代、補欠又は増員により就任した役員任期は、前項本文の規定に関わらず、前任者又は現任者の残任期間とする。

3 役員は辞任又は任期満了の場合においても後任者が就任するまで、その職務を行わなければならない。

(解任)

第15条 理事が次の各号の一に該当する場合は、理事会において理事現在数の3分の2以上の議決を得て、当該理事を解任することができる。

- (1) 心身の故障のため職務を執行することができないと認められるとき
- (2) 職務上の義務違反その他の理事たるにふさわしくない行為があると認められるとき

2 前項第2号の規定により解任しようとする場合は、第9条第2項の規定を準用する。

(報酬)

第16条 役員は、無報酬とする。但し、非会員の監事については、理事会の議決を得て報酬を支給することができる。

第4章 会議

(種別)

第17条 本会の会議は、総会、理事会とし、総会は通常総会及び臨時総会とする。

(構成)

第18条 総会は会員をもって構成する。

2 理事会は、理事をもって構成する。

3 監事は、会議に出席して意見を述べるができる。

(権能)

第19条 総会は、この規約に定めるもののほか、本会の運営に関する重要事項を議決する。

2 理事会は、この規約に定めるもののほか、次の事項を議決する。

(1) 総会の議決した事項の執行に関すること

(2) 総会に附議すべき事項

(3) その他総会の議決を要しない会務の執行に関する事項

(開催)

第20条 通常総会は、毎年1回、活動年度終了後75日以内に開催する。

2 臨時総会は、次に掲げる場合に開催する。

(1) 理事会が必要と認めるとき

(2) 会員現在数の3分の1以上の会員から会議の目的たる事項を示して請求があったとき

3 理事会は、次に掲げる場合に開催する。

(1) 会長が必要と認めるとき

(2) 理事現在数の3分の1以上から会議の目的たる事項を示して請求があったとき

(招集)

第21条 総会及び理事会は、会長が招集する。

2 総会を招集する場合は、日時及び場所並びに会議の目的たる事項及びその内容を開会の日の10日前までに会員に通知しなければならない。但し、議事が緊急を要する場合は、あらかじめ理事会で定めた方法により招集することを妨げない。

3 理事会を招集する場合は、前項の規定を準用する。但し、議事が緊急を要する場合は、あらかじめ理事会で定めた方法により招集することを妨げない。

4 前条第2項第2号又は第3項第2号の請求があった場合は、会長は速やかに会議を招集しなければならない。

(議長)

第22条 総会及び理事会の議長は、会長がこれにあたる。

(定足数)

第23条 総会及び理事会は、議決権を有する構成員のうち、その現在数の2分の1以上の出席をもって成立する。

(議決)

第24条 総会及び理事会の議事は、この規約に別途定めるもののほか、議決権を有する出席構成員の過半数の同意でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

コメント [O13]: A054 誤記修正

コメント [O14]: A054 誤記修正

コメント [O15]: A088 用語変更の影響吸収

コメント [O16]: A054 誤記修正

コメント [O17]: A088 用語変更の影響吸収

2 総会及び理事会においては、第21条第2項又は第3項の規定によりあらかじめ通知した事項についてのみ決議することができる。但し、議事が緊急を要するもので、**議決権を有する**出席構成員の3分の2以上の同意があった場合は、この限りではない。

コメント [O18]: A088 用語変更の影響吸収

3 総会の議決は、電子メール等の電子的手段にて代用することができるものとし、この場合による議決は、**正会員**の過半数の賛成により成立するものとする。

コメント [O19]: R32 用語変更

4 理事会の議決は、電子メール等の電子的手段にて代用することができるものとし、この場合による議決は、理事の過半数の賛成により成立するものとする。

(書面議決等)

第25条 やむを得ない理由のため総会又は理事会に出席できない**正会員**は、あらかじめ通知された事項について、委任状又は代理人をもって**議決権**を行使することができる。

コメント [O20]: A091 誤記修正

コメント [O21]: A089 用語変更

2 前項の代理人が会員代表者でない場合は、代理権を証する書面を会議ごとに議長に提出しなければならない。

コメント [O22]: R33 用語変更

コメント [O23]: A091 誤記修正

3 第1項の規定により**議決権**を行使する場合には、当該構成員は出席したものとみなす。

コメント [O24]: A091 誤記修正

(議事録)

第26条 総会及び理事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成し、活動期間内は、これを保管するものとする。

(1) 会議の日時及び場所

(2) **議決権を有する**構成員の現在数

コメント [O25]: A088 用語変更の影響吸収

(3) 会議に出席した**議決権を有する**構成員の数及び氏名(書面**議決者**及び代理**議決者**を含む)

コメント [O26]: A088 用語変更の影響吸収

(4) 議決事項

コメント [O27]: A088 用語変更の影響吸収

(5) 議事の経過概要

コメント [O28]: A088 用語変更の影響吸収

(6) 議事録署名人の選任に関する事項

コメント [O29]: A091 誤記修正

2 議事録には、議長及び出席した**議決権を有する**構成員の中からその会議において選任された議事録署名人2名以上が、記名押印しなければならない。

コメント [O30]: A091 誤記修正

コメント [O31]: A088 用語変更の影響吸収

第5章 資産及び会計

(資産の構成)

第27条 本会の資産は、次に掲げるものをもって構成する。

(1) 設立当初の財産目録に記載された財産

(2) 会費

(3) 設立後、譲渡を受けた財産

(4) 資産から生じる収入

(5) 活動に伴う収入

(6) その他の収入

(資産管理)

第28条 本会の資産は、会長が管理し、その方法は理事会の議決による。但し、資産の内、その用途又は管理方法について指定して譲渡されたものについては、その指定に従わなければならない。

(経費の支弁)

第29条 本会の経費は、資産をもって支弁する。

(活動計画及び収支予算)

第30条 本会の活動計画書、収支予算は、会長が毎活動年度開始前に作成し、理事会の議決を得た後、当該活動年度に開催される最初の総会の議決を得なければならない。

(活動報告及び収支決算)

第31条 本会の活動報告書、収支決算及び財産目録は、会長が活動年度終了後遅滞なくこれを作成し、監事の監査を経て、理事会の議決を得た後、当該活動年度終了後75日以内に総会の議決を得なければならない。

(特別会計)

第32条 本会は、活動の遂行上必要がある場合は、理事会の議決を得て、特別会計を設けることができる。

2 前項の特別会計は、第30条の収支予算及び第31条の収支決算に計上しなければならない。

(剰余金の処分)

第33条 本会の収支決算に剰余が生じた場合は、総会の議決を得て、その全部又は一部を翌活動年度に繰り越し、又は積み立てることができる。

(活動年度)

第34条 本会の活動年度は、毎年9月1日に始まり翌年の8月31日に終わる。

第6章 規約の変更、解散

(規約の変更)

第35条 この規約は、総会において、**出席した正会員数**の3分の2以上の議決を得た場合、変更できる。

(解散)

第36条 本会は、第3条に示した本会の目的を果たしたとき、あるいは、その役割を果たしたとき、総会において、**出席した正会員数**の3分の2以上の議決を得て解散することができる。

(残余資産の処分)

第37条 本会の解散の場合、残余資産は第36条に示した手続きの後、本会と類似の目的を持つ他の法人又は団体に譲渡できるものとする。

第7章 補則

(運営委員会)

第38条 理事会は、活動の円滑な遂行を図るため、運営委員会を設けることができる。

2 運営委員会は、理事会の委任を得て、本会の運営に関する事項を決定し執行する。

3 運営委員会は、本会の運営に必要な委員会を設けることができる。

4 運営委員会は、臨時理事会の開催を提言することができる。

5 運営委員会は、総会及び理事会の議事録の確認署名を行う。

(事務局)

第39条 本会の事務を処理するため、事務局を置く。

2 事務局には、事務局長を置く。

3 事務局は、理事会の議決を得て所要の職員を置くことができる。

4 事務局長は、理事会の同意を得て会長が委嘱する。

5 事務局長は、会長の指示を受け、会資産の管理を代行することができる。

6 その他事務局及び職員に関する必要な事項は、会長が理事会の議決を得て、別途定めるものとする。

(勉強会)

第40条 本会は、活動の迅速な遂行を図るため、勉強会を設けることができる。

2 勉強会は、特定の先端IT分野に関する学習の場を提供する。

3 勉強会は、会員が提案し、理事会への報告をもって活動を開始する。

4 勉強会は、その目的とする事項について、主として文献講読、試用、討議などを行う勉強の場とする。

(部会)

第41条 本会は、活動の円滑な遂行を図るため、部会を設けることができる。

コメント [O32]: A054 誤記修正

コメント [O33]: A054 誤記修正

コメント [O34]: A054 誤記修正

コメント [O35]: R35 内容明確化

コメント [O36]: R36 内容明確化

- 2 部会は、特定の先端 IT 分野に関する自己研鑽の場、切磋琢磨の場を提供する。
- 3 部会は、会員が部会新設を提案し、理事会の議決を得て、設ける。
- 4 部会は、その目的とする事項について調査、研究、試用評価、可能性のアセス、知見の共有を行い、報告書を作成する。

(プロジェクト)

- 第42条 本会は、活動の円滑な遂行を図るため、プロジェクトを設けることができる。
- 2 プロジェクトは、部会活動による仮説検証等を目的に、部会間、外部団体と連携し、研究する場を提供する。
 - 3 プロジェクトは、会員がプロジェクト新設を提案し、理事会の議決を得て、設ける。
 - 4 プロジェクトは、その目的とする事項について、実証実験の実施、報告書や提言書等の作成を行う。

(特別会員)

- 第43条 本会は、特定の部会活動や委員会活動等を推進するために特別会員を置き、その支援を受けることができる。
- 2 特別会員への登録は理事会の承認を得て行なわれる。
 - 3 特別会員 **に対して**会費の徴収はしない。
 - 4 特別会員 **は議決権を有しない**。
 - 5 特別会員は理事会の要請のある場合に限り、運営委員会およびその下部組織である委員会に参加することができる。
 - 6 特別会員は理事会の要請のある場合に限り、勉強会、部会、プロジェクトに参加することができる。

コメント [O37]: A070 明確化

コメント [O38]: A090 明確化

(個人会員)

- 第44条 本会は、本会活動の推進のため、個人会員を置くことができる。
- 2 個人会員への登録は理事会の承認を得て行なわれる。
 - 3 個人会員は総会の定める会費規定に基づき、会費を納入しなければならない。
 - 4 個人会員 **は議決権を有しない**。
 - 5 個人会員は本会の企画・主催するセミナー等に参加することができる。
 - 6 個人会員は予め理事会の了解を得て、勉強会、部会、プロジェクトに参加することができる。

コメント [O39]: A090 明確化

(学会会員)

- 第45条 本会は、普及啓発活動の一環として学会会員を置くことができる。
- 2 学会会員への登録は理事会の承認を得て行なわれる。
 - 3 学会会員は総会の定める会費規定に基づき、会費を納入しなければならない。
 - 4 学会会員 **は議決権を有しない**。
 - 5 学会会員は本会の企画・主催するセミナー等に参加することができる。
 - 6 学会会員は予め理事会の了解を得て、勉強会、部会、プロジェクトに参加することができる。

コメント [O40]: A090 明確化

(顧問)

- 第46条 本会は、本会の指針や活動全般、あるいは特定の部会活動やプロジェクト活動、あるいは委員会活動等に関し、有識者からの助言や支援を受けるために顧問を置き、その支援を受けることができる。
- 2 顧問への登録は理事会の承認を得て行なわれる。
 - 3 顧問 **に対して**会費の徴収はしない。
 - 4 顧問 **は議決権を有しない**。

コメント [O41]: A070 明確化

コメント [O42]: A090 明確化

(エバンジェリスト)

- 第47条 本会は、活動の対外的な普及促進を図るため、エバンジェリストを任命することができる。

2 エバンジェリストの任命は理事会の承認を得て行われる。

(アライアンス・パートナー)

第48条 本会は、他団体との連携を通して相互理解とお互いの活動の協調を図る為、アライアンス・パートナーを設置する。

2 アライアンス・パートナーへの登録は理事会の承認を得て行なわれる。

3 アライアンス・パートナー **に対して**会費の徴収はしない。

4 アライアンス・パートナー **は議決権を有しない**。

5 アライアンス・パートナーは予め理事会の了解を得て、運営委員会およびその下部組織である委員会に参加することができる。

6 アライアンス・パートナーは予め理事会の了解を得て、勉強会、部会、プロジェクトに参加することができる。

コメント [O43]: A070 明確化

コメント [O44]: A090 明確化

(メディア・パートナー)

第49条 本会は、IT 関連のメディア各社と協力し先端 IT 利活用の推進を図る為、メディア・パートナーを設置する。

2 メディア・パートナーへの登録は理事会の承認を得て行なわれる。

3 メディア・パートナー **に対して**会費の徴収はしない。

4 メディア・パートナー **は議決権を有しない**。

5 メディア・パートナーは予め理事会の了解を得て、運営委員会およびその下部組織である委員会に参加することができる。

コメント [O45]: A070 明確化

コメント [O46]: A090 明確化

(成果物の取り扱い)

第50条 本会の活動により得られた成果物の認定は理事会の承認による。

2 成果物は会員以外にも広く公開することを原則とする。

3 成果物の著作権(著作権法27条および28条に規定される権利を含む)は、当該成果物の表現のみならず成果物制作活動に関与した会員および本会との持分均等の共有とする。当該会員は部会その他の成果物制作活動の単位(以下、本条において「部会等」という)における相互の同意により選定される。当該会員が複数存在する場合には、当該会員間における持分配分は均等とする。共有者である会員は、当該成果物の全部または一部につき、他の共有者の了承および対価の支払なく自由に自ら著作権法に基づく利用(著作権法に基づく複製、翻案等を行うことをいい、以下同じ)を行い、あるいは第三者に著作権法に基づく利用を行わせることができるものとする。

4 当該成果物の著作権者である会員および本会は、本会の目的に鑑み、当該成果物に記載された内容のうち部会等における相互の同意により指定された範囲のものが変更されないこと、および出典が明示されることを前提に、本会および著作権者でない会員ならびに本会が当該成果物を一般に公開した場合の第三者が、当該成果物の全部または一部につき、著作権者である会員への対価の支払なく、著作権法に基づく利用を行うことを了承するものとする。

5 第3項の規定にかかわらず、成果物に会員が従前より保有する著作物が複製され、または翻案され含められた場合、当該著作物の著作権は当該会員に留保され、当該会員自身による著作権法に基づく利用は制約されないものとする。ただし、当該会員は、前項に規定された範囲において、本会、他の会員あるいは第三者が当該成果物に関する著作権法に基づく利用を行うことを了承するものとする。

6 成果物に係る著作者たる会員は当該各項において規定された範囲の著作権法に基づく利用に対しては著作者人格権を行使しないものとする。ただし、本会の同意がある場合はこの限りではない。

7 成果物への著作権表示等、取り扱いに関する細目は別途定めるものとする。

(知的財産権)

第51条 会員は本会の活動において、会員が従前より保有する特許権または実用新案権に基づく提案、発言等を行うに際しては、当該特許権または実用新案権を放棄する必要はないものとする。この場合、提案者、発言者は提案、発言等が成果物に認定された時、これを利用しようとする者の要請に応じ、公平、合理的かつ非差別的な条件で非独占的実施権を許諾しなければならない。

2 本会の活動において会員が提供・開示する情報は原則として公知の情報として扱う。

(実施細則)

第52条 この**規約**の実施に関して必要な事項は、会長が理事会の議決を得て、別途定めるものとする。

コメント [O47]: A054 誤記修正

(個人情報の取り扱い)

第53条 本会は、**会員**に関連する個人情報について実施細則に定める個人情報保護ポリシーに従い取り扱うこととする。

コメント [O48]: R79 用語変更

●会期規定

(会期)

第1条 本会の会期は2010年9月8日より2016年8月31日までとする。

第2条 会期の延長は、総会の承認による。

●会費規定

(会費)

第1条 **正会員**の年会費は次の通りとする。10万円

第2条 個人会員の年会費は次の通りとする。1万円

第3条 学会会員の年会費は次の通りとする。3千円

コメント [O49]: R80 用語変更

(納入時期)

第4条 年会費の納入は年1回とし、毎年度9月末日までに全額納入しなければならない。但し、新規会員については**本会が指定した**日までに全額納入しなければならない。

コメント [O50]: A072 誤記修正

2 新規入会が年度前期(9月から翌年2月)の場合は全額、年度後期(翌年の3月から8月)入会の場合は、年会費の半額をもってその年度の年会費とする。

コメント [O51]: A073 表現明確化

●活動支援金規定

(先端 IT 活用推進コンソーシアム活動支援金)

1 活動支援金は、一ロ一万円とする。

2 活動支援金は会員・非会員を問わず法人、個人事業主、個人から提供を受けることができる。

3 活動支援金は通年、随時の受付けとする。

以上

発効日:2010年9月8日

改定履歴:

2012年10月12日

- 会期規定 第1条 - 会期を3年間延長。

2013年12月13日

- 会員規約 第37条 - 誤記訂正
誤:「本会の解散の場合、残余資産は第37条に示した手続きの後」
正:「本会の解散の場合、残余資産は第36条に示した手続きの後」

文書整備 WG 修正作業履歴

2014/03/25 反映: A054, A070-072

2014/03/27 反映: R02,R04,R05,R12-14,R22-25,R32-33,R35-36,R79-80

2014/04/04 反映: R26

2014/04/08 反映: R01

2014/05/02 反映: A054,A073,

2014/10/10 反映: A088,A089

以上

第 4 号議案

第 5 期(2014 年度)活動計画承認の件

先端 IT 活用推進コンソーシアム

1. 本会の活動・運営方針

1) 活動理念

- ・ 一社ではできない活動、競合関係を超えた活動
- ・ 特定企業や団体からの独立性・中立性
- ・ 外部組織・団体との協業
- ・ 人的ネットワークの構築
- ・ 知見の発信・活用推進による社会貢献

2) 活動の目的

昨今、ITの変化は急速に速まり、加えて、従来の発展の方向性とは大きく変わりつつある。

本会は、新しいIT(以下、先端ITという)の活用を推進し、もってIT業界およびITが支える産業界、ならびに社会の発展に貢献することを目指し、技術者の自律的な活動を支援し、個々の技術者が先端ITを身につけ、今後の企業活動および社会の発展に活かすための活動の「場」を提供することを目的とする。

- 先端ITに関する情報を、いち早く技術者に提供・試用してみる場
- 技術者が切磋琢磨しあって先端ITに関する情報と知見を習得し、共有する場
- 先端ITの可能性を検証し、活用を推進する場
- 得られた先端ITの知見を発信していく場
- 先端ITに関する企業間交流の場

3) 活動の成果物

部会や協働プロジェクトの活動の成果として、以下の成果物を想定する。

- ・ 試用・検討報告書
- ・ 実証実験報告書
- ・ 事例集、ノウハウ集、活用提案あるいは提言書
- ・ プロトタイプシステムの設計書、ソースコード、環境構築手順書など

2. 第5期(2014年度)の活動計画

1) 活動構想

先端ITに何度でもトライ出来る「場」を提供し、先端ITに対するより深い知見の獲得・発信することをコンセプトとし、AITCの活動を発展・活性化することを目指す。

- ・ **先端ITの研究から、活用推進へと発展**
従来からの先端ITに対する研究を継続し、研究成果を踏まえて実社会での具体的な先端ITの活用方法の提案、および活用推進の活動を実施する。
- ・ **研究対象とした先端ITの中核を担うノウハウを社会に還元**
先端ITを活用するための普遍的な知見(理論、技術)を整理し、社会へ発信し還元する。また企業が提供する固有のサービスのベースとしてAITCが発信するノウハウの活用を推進する。
- ・ **社会に認められる先端ITのプロフェッショナル集団へ**
先端IT分野に対する研究成果を纏め、社会へ発信する。有用な情報を発信していくことにより、先端ITに対する知見を有するメンバーが集まる場としての地位を確立する。

2) 第5期の重点施策

以下に示す重点施策の遂行により、AITCの活動をより一層活性化し、活動構想の実現を目指す。

また、下記以外にも有効な施策があれば、適宜実施するものとする。

・部会活動の連携を更に強化

AITCの活動の中核は部会活動である。それぞれの部会が連携し、技術と人材が交流することにより、ひとつの部会だけではできない、より大きな成果を発揮できる場を提供する。その結果として部会活動そのものの更なる活性化を目指す。

・新しい協働プロジェクトを発足

これまで実施してきた協働プロジェクト ProjectLAの活動成果を踏まえつつ、新しい協働プロジェクトを発足する。テーマ選定、対象技術領域については、最新の技術動向と部会活動の方向性を考慮し、集中検討を行う。

・新しい技術領域へのチャレンジ

現在の部会が対象としている技術領域に限定せず、新しい技術領域にもチャレンジする。外部講師によるセミナーや勉強会の開催を推進する。

・部会メンバー間の人的交流の活性化

合同部会や合同セミナーなど部会メンバーが相互に交流できる場を提供する。

・ **情報公開、活動のオープン化の更なる強化**

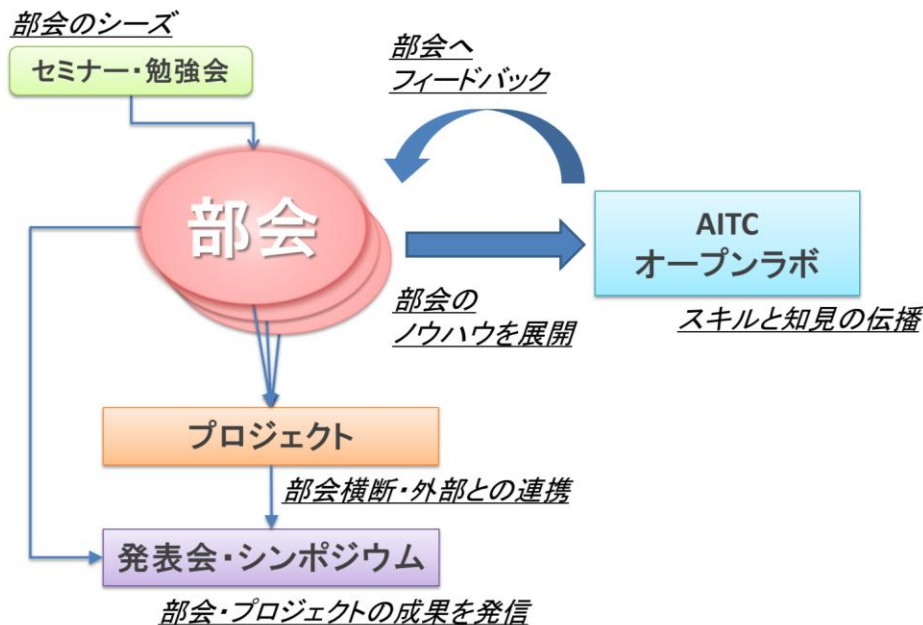
- ・ **研究成果を公開**
部会活動や協働プロジェクトなどで培った研究成果を纏め、発信・活用推進を目指す。広く世に公開することにより、先端ITの活用推進に寄与すると同時に、社会的認知度の向上を目指す。また有用な情報を発信していくことにより、先端ITに対する知見を有するメンバーが集まる場としての地位を確立する。
- ・ 「AITCオープンラボ」で活動成果を伝播
引き続き「AITCオープンラボ」を定期開催する。部会に蓄積されたスキル・ノウハウを発信することで講師のスキルアップ・AITCのプレゼンス向上・技術者のすそ野拡大を目指し、先端ITの活用推進の足掛かりとなる場として定着させる。
- ・ **情報公開、活動のオープン化**
AITCが発信する情報のオープン化を踏まえ、セミナー等の資料を速やかに一般公開する。これにより鮮度良く、リアルタイム性の高い情報を外部に発信することで先端ITの活用推進に寄与する。資料の公開に、外部サービスを活用することで、より多くの利用者からフィードバックを受けられるようにする。
また、活動の告知にオープンな外部サービスを活用することにより、認知度の向上と参加者の増加を図る。

・ **先端IT人材の活性化・多様化とネットワークの強化**

- ・ **若手技術者のより一層の育成**
先端ITの活用推進を担う若手技術者に、AITCの持つ知見や人脈を活用できる場を提供する。
AITCオープンラボへの参加を通じて、新しい技術に対する知見の獲得、技術者の保有するスキル・ノウハウの発表、意見交換等による研鑽の場の提供を行うことにより、若手技術者の成長に寄与することを目指す。
- ・ **シニア技術者と若手技術者が交流する場を提供**
長年の経験と技術を持つシニア世代の技術者に活躍の場を提供する。AITCを通じてシニア世代の力が社会のために活用されることを目指す。また、AITCの活動に幅広い視点からの意見を得ること、若手技術者への知見の伝承を図る。
シニア技術者と若手技術者の交流の場を用意する。シニア技術者の培ってきた知見・経験を若手の技術者に伝承することを目的とする。
- ・ **女性の活躍と参加を促進**
より多くの女性にAITCの活動に参加してもらうことで、女性の持つ活力を生かし、活動の活性化を図る。また、女性参加者がAITC活動の企画、運営に深く関与することで、より一層の広がりや多様な視点を得ることを目指す。
オープンな場での活動を通じてAITCを知ってもらい、AITCの活動に継続して参加する女性の増加を目指す。

3) **活動の種類と関係性**

AITC活動の種類と関係性を以下に示す。



① **セミナー・勉強会**

最新情報を入手する場

内外著名人による講演、交流の場

特定の先端ITに関して、参考文書を読み、試しに使ってみる場

- ・ 部会のシーズとなる先端IT
- ・ 旬の話題、関心の高いトピック

・製品・サービスの紹介

セミナーでは、部会や勉強会のシーズとなる先端 IT を取り上げ、内外著名人による講演を通じて、最新情報を入手する場を提供する。いち早く先端 IT の情報を入手するため、外部講師によるセミナーを定期的に開催する。

また勉強会では、早いスピードで次から次へと新技術が誕生する分野であることを意識し、特定の先端 IT を短期集中(3ヶ月程度)で学習する。先端 IT の動向を見ながら、そして会員の希望に副わせながら、旬のテーマを取り上げていく予定であり、人気の高い先端 IT に関しては、適宜、勉強会を繰り返すことも計画する。会員は希望する勉強会に何度でも参加することができる。

② 部会

スキルを身につけ、ノウハウを共有する場

・特定の先端 IT を取り上げ調査し、試用に基づき評価し、可能性のアセスをし、知見の共有をし、報告書の作成を目指す。

部会では、特定の先端 IT を対象に、参加メンバーが活動期間と目標、そして具体的な活動内容や方法を定める。定期的な活動を通して、また、すでに知見を有するメンバーとの交流を通して、参加者は特定の先端 IT に関し知識とスキルを深め、ノウハウを共有することが可能となり、加えて、人的ネットワークを培うことができる。会員は希望する部会に、いつでも、いくつでも、参加することができる。

③ AITC オープンラボ

部会で得た知見を伝播する場 ・ 参加者の反応や要望を部会へフィードバックする場

・部会に参加出来ない会員への参加機会の提供
・広く AITC の活動を告知し、会員内外での認知度向上に寄与
・活用推進への足掛かりとして裾野を広げ、知見を社会に還元

AITC オープンラボでは、部会の活動内容・成果を基に、勉強会や他団体との交流イベントを開催する。部会に参加されていない会員も部会の活動内容を知ることができ、部会活動で培った知見、ノウハウを得ることが可能になる。部会側は参加者の反応や要望のフィードバックを受けることで、活動の進化・深化に役立てることができる。イベントは多様な形態を構想しており、「セミナー」「ハンズオン」「わいがや・オフライン」「会社見学」「他団体との交流」など、取り扱うテーマに合わせた形態でのイベント開催を目指す。会員は希望する AITC オープンラボに何度でも参加することができる。

④ 協働プロジェクト

部会間／外部団体との連携で研究を行う場

・先端 IT を使った実証実験、報告書/提言書の作成
・実証実験ではシナリオ作成、シナリオ設計、実装を行う
・公募による参加者募集

協働プロジェクトは、特定の目標(特定テーマによる実証実験、報告書/提言書等の作成)のために、一定期間、複数部会が合同で、あるいは、外部組織・団体と連携し活動する。実証実験の目的は、部会活動で得た仮説を検証することであり、外部との連携により、ユーザー視点での取り組み、データの提供、現場の助言等を受けられる利点がある。先端 IT の活用例を提示することで、活用推進の一翼を担い、成果物をもって協働プロジェクトで得た知見を社会に還元することを目指す。会員は公募に応募し、協働プロジェクトに参加することができる。

⑤ 発表会・シンポジウム

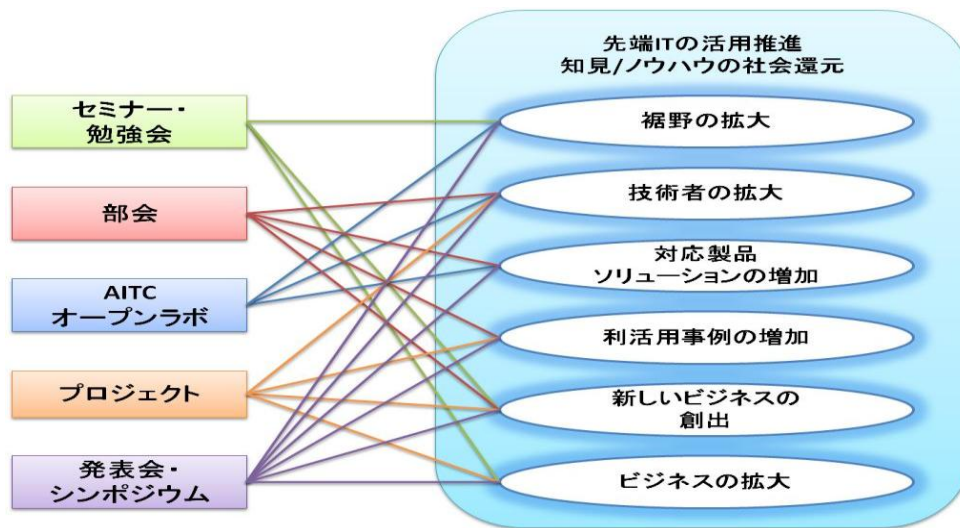
実活動に基づく情報と知見を共有する場

・部会の活動や成果、協働プロジェクトの成果を発表する

部会や協働プロジェクトでの活動内容、成果を基に、会員内や外部に対して発表を行う。AITC 単独で開催する場や、他の団体と共催する場、または他の団体が主催する場での発表を通して、知見を社会に還元し、先端 IT 活用推進の実現を目指す。

4) 活動の期待効果

先端ITの活用推進、知見・ノウハウの社会還元を実現するための要素に対して、活動を通して下記のような直接的、間接的な効果があがると想定する。



5) 活動対象分野

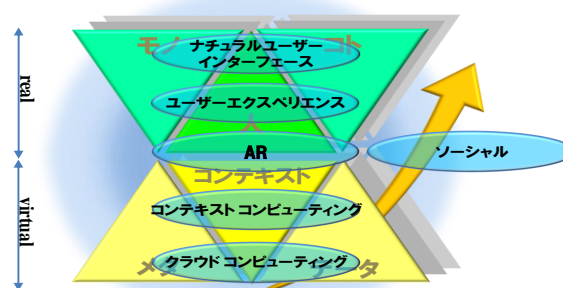
本会では、これからのビジネスや社会基盤を支えるであろう先端 IT を取り上げ、新しい IT 活用を拓くことを目指し活動している。ユーザー・インターフェースからデータ/情報、アプリケーション、そしてシステム基盤関連まで幅広い分野における先端 IT をカバーしているからこそ、活動への関与の仕方次第で幅広いスキルやノウハウ、情報や知見を得る機会があり、多様な人との交流も可能になることが期待できる。

この視点に立ち、本年度は以下の対象分野別の活動を中核に据える。

- ① クラウド・コンピューティング
 - ② コンテキスト・コンピューティング
 - ③ AR (Augmented Reality)
 - ④ ユーザーエクスペリエンス (UX) 技術
 - ⑤ ナチュラルユーザーインターフェース (NUI) 技術 <注: ネットデバイスアプリケーション (NDA) からの移行>
- (注: ソーシャル・コミュニケーション分野に関しては、部会ははじめ AITC の活動全体で SNS 等の仕組みを設立時より活用)

注: 分野別の活動計画詳細については、本議案書の付属資料に記載

【活動対象分野の位置付け】

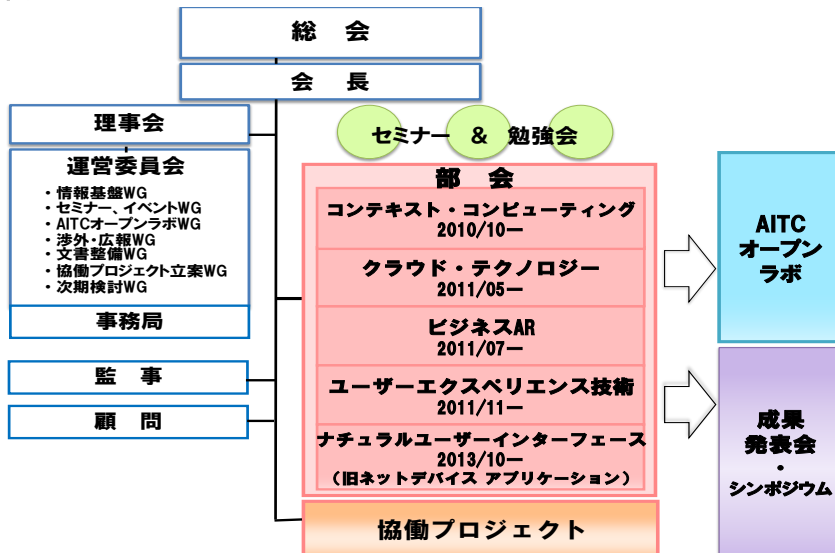


【新規分野への取り組みについて】

活動対象分野以外の先端 IT に関しては、次の方法をもって会員からの要望を収集し、活動の立ち上げや旬の情報提供に努める。

- ① 本会会員なら誰でも、いつでも要望、意見等何でも書き込み可能な会員 SNS「わいがや会議室」を新しい活動テーマや旬の情報の発掘にも活用する。
- ② 運営委員会が、適宜、セミナーを企画、開催する。
- ③ 会員が提案し所定の手続きを経て活動を立ち上げる。
 - 会員規約第 40 条 (勉強会)
 - 3 勉強会は、会員が提案し、理事会への報告をもって活動を開始する。
 - 会員規約 第 41 条 (部会)
 - 3 部会は、会員が部会新設を提案し、理事会の議決を得て、設ける。

6) 体制図



7) 年間主要活動計画

(年次)	2014年10月17日	理事会、第五回総会、総会記念講演、懇親会
	2015年10月(予定)	理事会、第六回総会、総会記念講演、懇親会
(月次)		運営委員会、部会リーダー会 部会(月例F2F会議) 協働プロジェクト立案・推進会議 AITCオープンラボ
(随時)		SNSコミュニティによる部会や協働プロジェクト活動 Webサイト更新作業 セミナー 活動成果発表会 AITC内あるいは他団体との交流会、情報交換会 取材協力 外部主催の催事に対する出展、協賛等

第 5 号議案

第 5 期(2014 年度)予算計画承認の件

先端 IT 活用推進コンソーシアム

第 5 期(2014 年度)予算計画

2014 年 9 月 1 日 から 2015 年 8 月 31 日 まで (単位:円)

	2013 年度 予算	2013 年度 実績	2014 年度 予算案	備考
1. 収入の部				
前年度繰越	6,351,062	6,351,062	6,955,055	
年会費	3,686,000	3,461,000	3,523,000	法人&個人事業主 34 会員×10 万円 個人会員 12 会員 × 1 万円 学会会員 1 会員 × 3 千円 注:総会開催時点の会員数で算出
セミナー等参加費	220,000	191,095	190,000	非会員参加費 10 名 × 3 千円 懇親会参加費 80 名 × 2 千円
雑収入	1,200	1,330	1,400	受取利息等
収入の部合計	10,258,262	10,004,487	10,669,455	
2. 支出の部				備考:主用途
総会開催費	300,000	211,856	300,000	賞状作成費用、懇親会費用、備品運搬費等
AITC オープンラボ、セミナー開催費	1,000,000	103,625	1,000,000	外部会場費、 外部講師御礼(交通費、懇親会費)
コンソーシアムサイト 運用管理費&リニューアル費	200,000	195,323	200,000	Web サイト レンタルサーバー費、 サイト リニューアル費
活動支援金	2,100,000	274,577	2,200,000	部会共用システム基盤費 部会別レンタルサーバー費、 部会活動用の機器購入/レンタル費 成果発表会開催費 等
協働プロジェクト支援金	200,000	114,227	1,500,000	レンタルサーバー費、 実証実験費(交通費&宿泊費)、 合宿費(検討、開発&内部検証)
特別支援金	1,000,000	232,278	300,000	シニア&若手技術者の交流会、 女性技術者交流会等 開催費
イベント参加費	500,000	107,207	300,000	外部イベントへの参加、出展費
事務局経費	1,785,000	1,785,000	1,944,000	事務局サポート要員費 (情報配信&サイト管理、会員管理&対応、 セミナー等申込受け付け&運営補助、 財務管理、経理業務、事務作業一般、対外対応等)
通信費	10,000	960	10,000	郵送料、宅急便費
事務消耗品費	5,000	2,545	5,000	
雑費	50,000	21,834	50,000	振り込み手数料 名刺作成費(ロゴ変更に伴う新規作成)
予備費	3,108,262	0	2,860,455	
支出の部合計	10,258,262	3,049,432	10,669,455	

- 特記事項: 1. 年会費の収入は現会員数をベースに確実な収入額を計上
 2. 重点施策の実現に向け予算を配分
 1)新しい技術領域へチャレンジするセミナーの開催経費 →AITC オープンラボ、セミナー開催費
 2)Project LA に続く新しい協働プロジェクト実施のための経費 →協働プロジェクト支援金
 3)シニア&若手技術者の交流会、女性技術者交流会の開催経費 →特別支援金
 3. 次年度の活動支援金を担保するため、総収入の 27%を予備費として計上

第6号議案

第5期(2014年度)理事/監事選任の件

先端IT活用推進コンソーシアム

第5期(2014年度) 先端IT活用推進コンソーシアム役員構成

【理事候補】(敬称略、社名50音順)

(交代)

株式会社 NTT データ 技術開発本部 サービスイノベーションセンタ センタ長 風間 博之

(留任)

アドソル日進株式会社	先端 IT 技術部 部長	佐藤 一裕
イースト株式会社	代表取締役社長	下川 和男
彩葉ソリューションズ	代表	澤崎 章二
インフォテリア株式会社	代表取締役社長/CPO	平野 洋一郎
独立行政法人 情報処理推進機構	顧問	鶴保 征城
ドリーム IT21	代表	田原 春美
日本ユニシス株式会社	アドバンスド技術部 部長	佐藤 和雄
株式会社日立製作所	情報・通信システム社 IT プラットフォーム事業本部 開発統括本部 主管技師長	吉野 松樹
株式会社日立ソリューションズ	技術開発本部 研究部 部長	小野山 隆
富士ゼロックス株式会社	執行役員、ソリューション・サービス開発本部/本部長	永岡 大治
富士通株式会社	次世代クラウドシステム開発推進室 シニアディレクター(システムアーキテクチャ担当)	藤田 和彦
PFU ソフトウェア株式会社	開発技術センター UX 技術部 部長	松山 憲和
ピースミール・テクノロジー株式会社	代表取締役社長 CEO	林 浩一
リコーIT ソリューションズ株式会社	経営企画本部 STC エグゼクティブスペシャリスト	飯沢 篤志

【監事候補】

(留任)ピー・シー・エー株式会社 代表取締役社長 水谷 学

参考: 顧問&部会顧問(敬称略、組織名50音順)

【AITC 顧問】

(留任) 慶應義塾大学 環境情報学部 教授	萩野 達也
慶應義塾大学 大学院 メディアデザイン研究科 教授	稲見 昌彦
(独)産業技術総合研究所 知能システム研究部門 上級主任研究員	和泉 憲明
東京大学 大学院情報理工学系研究科 ソーシャル ICT 研究センター 教授	橋田 浩一
名古屋大学 情報連携統括本部 情報戦略室 教授	山本 修一郎
早稲田大学大学院 生産情報システム研究科 客員教授	丸山 不二夫

【ビジネス AR 研究部会顧問】

AR 三兄弟 長男	川田 十夢
デジタルハリウッド大学大学院 メディアサイエンス研究所 教授	三淵 啓自

【運営委員候補】(敬称略、社名50音順)

(留任)

アドソル日進株式会社	先端 IT 技術部	荒本 道隆
株式会社イーグル	開発部	菅井 康之
彩葉ソリューションズ	代表	澤崎 章二
インフォテリア株式会社	代表取締役社長/CEO/CPO	平野 洋一郎
株式会社 NTT データ	技術開発本部 サービスイノベーションセンタ 課長	高木 徹
株式会社NTTデータ経営研究所	公共行政サービスコンサルティングユニット マネージャー	大林 勇人
住友セメントシステム開発株式会社	技術統括部 研究開発チーム	陣内 康行
株式会社ディーディーエス	システム部 部長代理	原 孝治
ドリーム IT21	代表	田原 春美
日本ユニシス株式会社	ビジネスアグリゲーション部 事業クリエーション室 担当課長	牧野 友紀
株式会社日立ソリューションズ	技術開発本部 研究部	富山 全徳
ピースミール・テクノロジー株式会社	先端技術研究部	高岡 大介
富士通株式会社	計画本部 開発企画統括部 エキスパート	小森 斉
富士ゼロックス株式会社	コントローラ開発本部 コントローラプラットフォーム第二開発部 マネージャー	道村 唯夫
富士ゼロックス株式会社	コントローラ開発本部 コントローラプラットフォーム第四開発部	門馬 隆
PFU ソフトウェア株式会社	開発技術センター UX 技術部 部長	松山 憲和
リコーIT ソリューションズ株式会社	経営企画本部 STC エグゼクティブスペシャリスト	飯沢 篤志

付属資料

第5期(2014年度)活動のご紹介

～部会および協働プロジェクトの活動計画～

クラウド・テクノロジー活用部会

コンテキスト・コンピューティング研究部会

ビジネス AR 研究部会

ユーザーエクスペリエンス技術部会

ナチュラルユーザーインターフェース活用部会

協働プロジェクト(Project LA)

先端 IT 活用推進コンソーシアム

クラウド・テクノロジー活用 部会

■背景/活動目的

4年目は、部会名称を「研究部会」から「活用部会」に変更し、様々な技術に実際に触れてみるだけでなく、部会内で勉強会を開催することで『人に教えることのできるレベル』を目指した。勉強会のいくつかは、オープンラボで AITC 以外の人に対しても行った。

この5年目は、部会内勉強会からオープンラボでの外部向け勉強会の開催を継続しつつ、特に IoT を実現するための要素技術に注力する。

- ・測定(センシングなど) : Arduino を使ったセンシング
- ・収集(ネットワーク) : 無線 LAN, Bluetooth, 電子署名
- ・蓄積(KVS, クラウドサービスの利用) : RDF, SPARQL, IaaS の利用
- ・分析(統計処理, オープンデータの利用, アルゴリズム) : R, 遺伝的アルゴリズム, ディープラーニング
- ・出力(ビジュアライゼーション, プッシュ通知) : R, D3.js

これら広範囲の各要素技術に対し、部会参加者が「知っている」ではなく「使ったことがある」「人に教えることができる」と言えるレベルを目指す。また、それらを使ったプロトシステムを開発し、運用を行う。

■活動計画

- ・情報収集
- ・ハンズオン形式の勉強会の開催(2ヶ月に1回ペース)
- ・プロトシステムの作成

■活動成果

- ・勉強会資料
- ・プロトシステムの AITC 内公開

■活動方法

- ・月例ミーティングの開催
- ・SNS 上での情報交換
- ・ハンズオン形式での勉強会開催

■体制(敬称略)

- リーダー : 荒本 道隆(アドソル日進)
- サブリーダー: 上村 準也(キヤノンソフトウェア)、菅井 康之(イーグル)

コンテキスト・コンピューティング(CC)研究部会

■背景

物事は、人の認知の仕方によって異なった価値や意味を持つ。

その価値や意味の違いは、対象とする物事と関連する物事の関係性の違い、つまり“コンテキスト”の違いに現れたりする。

IT を使って人がこのようなコンテキストを自由に扱えるようになったら、人々のコミュニケーションが深まったり、

人々が協同し活動する成果がもっと豊かになったりするのではないかな。そんな思いでコンテキストをコンピュータする研究を行う。

この研究活動において、コンテキスト・コンピューティングとは関係性をデータとして記録し、活用する情報活動であり、対象とする関係性は人と人、人と物事、人と環境である。

■活動目的

近未来の情報社会をビジョンとして描き、コンテキスト・コンピューティングにより個人と社会のインテリジェンス (Social Intelligence) が階層的に連動する情報基盤を提言する。

■活動内容

- ・コンテキスト・コンピューティングにより実現するビジョン「人と機械(コンピュータ)の協働による“情報の個人化” “社会知の形成”」の検討
- ・2020年のITシステムにおける Social Intelligence の姿と実現方法の構想
- ・コンテキスト・コンピューティングを実現するための基盤となるプラットフォームの作成
- ・コンテキスト・コンピューティングの社会・ビジネスにおける応用例の提案
- ・コンテキスト・コンピューティング先行研究・関連研究の調査、計算アルゴリズムの検証
- ・コンテキスト・コンピューティングの具体化のための技術要素の調査・試用(モバイル・ウェブアプリ等)

■活動計画

これまでの研究活動で構想したビジョン「人と機械の協働による社会知形成」に向けて、研究成果と課題を整理し、新たな中期の研究テーマを策定する。

コンテキスト・コンピューティング実現のための技術要素の試用・紹介と、関連研究・アルゴリズムの調査を行い、これらの検証を通じてコンセプト・応用先・実現方法を検討する。

■活動成果

- ・人と機械の協働による社会知形成」実現に向けたコンテキスト・コンピューティング研究状況(成果と課題の整理)報告書
- ・コンテキスト・コンピューティングの応用に関する報告書
- ・コンテキスト・コンピューティング関連研究に関する調査資料
- ・コンテキスト・コンピューティングの具体化のための技術要素に関する調査資料

■活動方法

- ・月次ミーティングでのディスカッション
- ・SNSを使ったオンラインでのディスカッション

■体制 (敬称略)

リーダー : 牧野 友紀(日本ユニシス株式会社)

リーダー代理: 道村 唯夫(富士ゼロックス株式会社)

サブリーダー: 小林 茂(個人)、

高岡 大介(ピースミール・テクノロジー株式会社)

陣内 康行(住友セメントシステム開発株式会社)

顧問 : 和泉 憲明(産業技術総合研究所)

ビジネス AR(BizAR)研究部会

■背景

この1年間で、スマートデバイスの一層の普及、ウェアラブル端末やセンサーネットワーク、生活支援ロボットへの期待の高まりが生じている。このような潮流をテクノロジーの観点で俯瞰すると、人間の感覚(視覚だけでなく聴覚や触覚など)の拡張やITと人間が一体となった(総連携)技術(=我々が考えるAR)の萌芽とみなすことができる。

他方、社会やビジネスの観点では、経済のグローバル化のさらなる進展と同時に、それとは異なる圏域(ローカル経済圏、脱貨幣、プロボノ等)が勃興しつつあり、世の中に広く影響を与える汎用テクノロジー(GPT)の開発や活用のあり方も新しい局面を迎えようとしている。

■活動目的

最先端のAR技術の把握と習得、及び今後の社会やビジネスの変化を踏まえたARの活用(ビジネスAR)について研究することを活動目的とする。さらに活動成果を発信していく。

■活動内容

前述の活動目的を達成するため、下記の活動を行う。

- 1)ビジネスARを創出、普及・展開するための考察・議論・グループ活動
- 2)AR技術への理解を深めるためのプロトタイプ開発・試行実験
- 3)上記活動を成果物としてまとめ、外部発信の活性化

■活動計画

前述の活動目的を達成するため、今までの部会活動を鑑みて2014年度は下記の活動を行う。

- 1)AR産業論に関する議論と取りまとめ
- 2)ロボティクスインターフェースによる聴覚ARを用いた遠隔会議の実施と検証
- 3)空間OS開発、簡易フォースフィードバックグローブ開発とそのための新技術の習得など
- 4)2014-2015ここ1年のAR関連情報のアップデート
- 5)成果発表会、外部イベントにおける講演、パブリックコメントやコンテスト等への投稿など

■活動成果

- 1)新しいAR産業論
- 2)技術トライアル成果物の公開
- 3)講演等各種外部発信資料、月例会議事録及び参考資料

■活動方法

- 1)月例会の開催
- 2)SNS等を利用した意見交換や技術情報の交換、トライアル開発
- 3)顧問、外部団体・有識者との意見交換

■体制(敬称略)

リーダー：大林 勇人(NTTデータ経営研究所)

サブリーダー：中川 雅三(日本総合システム)、吉田 光輝(日本ユニシス・エクセリューションズ)

ユーザーエクスペリエンス(UX)技術部会

■背景

ITシステムが、その機能面での優劣を競うだけの時代から、利用者にとって、どんな価値や経験を提供できるかが重要視され

る時代へと変わってきた。

また、ユーザー体験(ユーザーエクスペリエンス、UX)を高めることは、コスト削減あるいは売上拡大というビジネス面からも重要性が増している。

しかし、優れたUXを提供するITの実現には、先進的なUI技術やグラフィックデザインだけではなく、使い易さを追求するための人間工学や心理学、社会的あるいは文化的な状況への洞察など幅広い知識と経験が必要であり、一朝一夕に実現できるものではない。

このような状況の中、UXデザインプロセスとして様々な手法やツールが提供され体系化が進められてきている。

加えて製品単体のUXだけではなく、広い意味でのサービスを含めた、サービスデザインについても研究が進んでいる。

■活動目的

UXデザイン/サービスデザインプロセスの実践を通して、利用者に、より良い体験を提供するITシステムとは何かを探究する。

UXデザイン/サービスデザインプロセスの実践・評価によって得られた知見を広く提供していくことで、ITのUX向上に貢献していく。

■活動内容

UXデザイン/サービスデザインプロセス

UXデザイン/サービスデザインプロセスで活用できるツールや手法の研究と実践を行う。

更に並行して

- ・UXに優れたアプリケーションやITシステムの事例研究
 - ・近未来UXの検討
- を行う。

■活動計画

・2014年9月～2014年12月:サービスデザインの研究/実践

外部セミナーやワークショップの受講と部会での実践

・2015年1月～2015年8月:協働プロジェクトを対象にしたサービスデザインプロセスの実践

■活動成果

- ・サービスデザインプロセス成果物

■活動方法

- ・Face2Faceミーティングの開催
- ・SNS上での情報交換
- ・セミナー/ハンズオン形式勉強会の開催

■体制(敬称略)

リーダー : 松山 憲和(PFUソフトウェア)

サブリーダー: 原 孝治(ディーディーエス)

ナチュラルユーザーインターフェース(NUI)活用部会

■背景/活動目的

部会新設となった前年度は、最新の NUI 技術や各種デバイス／ガジェットなどを紹介するセミナー／イベントを中心とした活動に対して、コンソーシアムの内外から多くの参加者を迎え、大きな関心を得ることが出来た。また、視覚や手の動きを用いてタッチパネル式端末の利用性を向上させるための実証実験を行い、多くの成果を得ることができた。

今年度も引き続き、最新技術やデバイスの紹介などを行うとともに、前年度の成果を踏まえて、NUI の特性をより引き出しより身近に使えるものとなるようなプロトタイプ開発を目指し、調査・研究を行っていく。その活動を通じ、直感的で誰もが使いやすいインターフェースとは何かを探究し、ビジネスやサービスにおける様々なアプリケーションの利便性の向上に貢献していく。

■活動内容

- ・NUI デバイスの技術仕様や導入事例の調査に基づき、
 - ・様々な業種における NUI の活用シーン
 - ・これまでのユーザーインターフェースに不足しているもの
 - ・より優れたインターフェースの在り方
 - ・これから求められるであろう新しいインタフェース
 - ・NUI によるユーザーエクスペリエンスの向上
- を考察し、
- ・より直感的でより身近に使えるアプリケーションの開発
 - ・活動を通じて得られた知見の公開
- を行う。

■活動計画

- 2014 年 9 月： 前年度活動成果発表会
- 2014 年 10 月～2014 年 11 月： 前年度成果物の検証
アプリケーション開発を通じて得られた知見の取りまとめ
- 2014 年 12 月～2015 年 3 月： NUI 利用シーン、適用可能なサービスの検討
制作テーマ決定
- 2015 年 4 月～2015 年 8 月： アプリケーションデザイン
制作
- 随時： NUI 技術及び事例の調査
デバイス、ガジェット紹介
勉強会
- 次期未定： NUI 技術紹介セミナー
デバイス紹介イベント
外部向け NUI 技術勉強会

■活動成果

- ・NUI を活用するためのデザインアプローチ
- ・NUI を活用したアプリケーション
- ・NUI の活用によってもたらされるなにか

■活動方法

- ・Face2Face ミーティングの開催
- ・SNS 上での情報交換
- ・セミナー/ハンズオン形式勉強会の開催

■体制

- ・リーダー 岡村和英(テクリエ)
- ・サブリーダー 桶作篤司(PFU ソフトウェア)

協働プロジェクト(Project LA=Leads to Action)

■背景

先端 IT を活用することで、「単に頭に入っている情報や知識に価値がある」状態から、「情報や知識を活用して行動し、日常生活に活かすことに真の価値がある」との考えに基づき、収集した情報を知識化し、行動を促す・行動を引き起こす仕組みが実現可能になってきている。

2010 年から活動してきたが、今期でシステムの開発に区切りをつけ、プロジェクトの活動成果をまとめて報告書を作成し、次のプロジェクト活動の発展につなげていく。

■活動目的

一つのテーマのもと、本会が対象とする先端 IT 各分野の活動が集結・連携し、プロトタイプを構築することで、先端 IT の有用性を検証、評価する。

会員に先端 IT に関するスキルやノウハウ習得の場を提供する。

構築後のプロトタイプを一般公開し、試用してもらうことで、先端 IT の有用性を世に広く訴求し、利活用推進の一助とする。

■活動内容

- ・開発したシステムを使った防災訓練の実施
- ・活動成果のまとめ

■活動計画

- ・2014 年 9 月 13 日:QPITS と共同での一般の方を対象とした防災訓練の実施
- ・2014 年 9 月～2014 年 11 月:Project LA 活動報告書の作成、レビュー、リリース

■活動成果

- ・System LA
- ・防災訓練シナリオ
- ・Project LA 活動報告書

■活動方法

- ・SNS 上での情報交換
- ・Face2Face ミーティングの開催

■体制（敬称略）

- ・コーディネーター: 飯沢篤志(リコーIT ソリューションズ)
- ・コーディネーター: 道村唯夫(富士ゼロックス)